発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　澁田紀生
年間600円　送料共

# 三井はこの手紙に応えよ

**これは一一。九大変災遺族の浜村さんが、三池鉱業所長に出した内容証明つきの手紙です。**

三池鉱業所長殿にお願い

私は遺族の浜村ミサヲです。昭和十四年三月二十二日主人の重光は万田坑で、落盤で殺されました。

その時娘は二才で今度殺された昭和三十八年の炭じん大爆発の際犠牲となった息子さんのこと）は生まれて二十六日目でした。

二人の子供をかかえ、私は二十九才から子供を頼りに生きてきました。

子供が五才と四才になって建設に仂きました私を、会社は昭和三十五年第二次合理化攻撃の中で、首を切ってしまいました。

娘を嫁がせて、これから楽になろうとたのしんでいましたとき、昭和三十八年十一月九日、またも重信を三井は殺してしまいました。かけがえのない子を殺されて私は三重にも苦しみ、この年よりの身を悲しみの中に生きています。

二十五才まで命がけで育てた息子の退転金は、たった十九万円。三井の払った弔慰金がたった四十万円。国鉄や飛行機事故にしろ、弔慰金は三井の十五倍もあるではありませんか。

同じ人間でしょう、こんな仕打ちをしながら、今日まで月七千円の待機手当（体が弱いため就転できない遺族に、組合が会社から勝ち取った生活補償）では生活もできないのに、二月までは延期して、うわさ話ではその先は一時金ですまそうとするようす。災害の時、また社葬の時、会社は何といいましたか。そんなことが人の道ですか。こうしたことが、世の中に通るでしょうか。私は許しません。

重信をかえして下さい。私の生涯をかけた息子を返して下さい。人の命をむざむざとむしり取って、そのつぐないもせぬ三井を、私は一生うらみます。

今となっては、息子の命をかえせといっても無理でしょう。息子にかわって、一生面倒を見てもらいます。

今年は、お正月のもちもできませんでした。誠意のある御返答をお願いいたします。

昭和四十四年一月二日

浜村ミサヲ

三池鉱業所長
岡崎大三郎様

×

これは、三池の遺族の一人＝浜村ミサオさん（59才、荒尾市緑ケ丘向日葵社宅73棟）は、三十年前ご主人を坑内で殺され、昭和三十五年の三池闘争のときその三井の手で、千二百人の一人としてこんどは自分が首切られ、さらに三十八年の大爆発のときには、頼む一人息子の重信さんを殺された人で、いまは月々七千円の遺族手当にすがりながら、くらしていられます。

浜村さんはこれまで三池鉱業所長ばかりでなく、三井鉱山社長らにも、いまの生活の苦しさを訴える手紙を幾回となく出しましたが、鉄砲ダマと同じで、だれからも返事がこなかったのです。

ついにたまりかねて、こんどの内容証明つきの手紙を出すことになったのです。浜村さんの尊い人生を、これほどまでにいためつけた責任者として、三井はこの怒りの手紙にこんどこそこたえるべきです。

## 三池CO患者遺族を守る会ニュース

〈第六号〉

# 鉱長室をつつむ怒り

## 発生する連続災害　まき起こる抗議行動

十三日発行の本紙号外が伝えたように、この十一日三川鉱（鉱長＝織田亮三郎）の坑底で起きた落盤事故によって、三池新労組員の森照男さん（払採炭、四十二才）が殺された。この事故では他に小野勝美さん（同じ新労組員の払採炭、三十六才）も重傷を負ったが、実にことしにはいってからだけで早くも三人の労仂者が殺されたことになる。打ちつづくこのような恐るべき事態は、新石炭政策（炭鉱ぶっつぶし政策といわれている）が展開しようという時機をとらえ、かえって石炭産業における独占を強め、いっそうの利潤拡大をはかろうとたくらむ三井が、シャニムニすすめている人間無視のはげしい合理化が生みだしていることはハッキリしている三池労組はただちに保安団交を通じて会社側の責任をきびしく追及するが、当の三川鉱では全坑場をまきこんで抗議行動に発展し、はげしい怒りが鉱長室をつつんだ。

## 新労組員に犠牲集中

### 全労働者への警告

一月九日、宮浦鉱（鉱長＝藤吉重敏）の本層五十卸分層払上段払で落盤。新労組員の川田登志次さん（払採炭、以下いずれも新労組員）重傷。

一月十四日、宮浦鉱五十卸左十片で落盤。安原光嗣さん（採炭、49才）がその下敷になり死亡。

一月十五日、宮浦鉱本層五十卸右八片で十輌連結の炭函が、約七度の勾配の斜坑道を逸走、フレム（ベルトをささえる土台）に突っこむ。さいわい落盤なく、負傷者をださずにすんだものの、内柱やカク目など打ち折られ、バラバラになった。

一月二十一日、宮浦鉱の本層五十卸左五片払切羽で、ハッキリと「仕事中」の注意札をさげて配線工事中だった平川俊正さん（内電工、45才）が、不意に流れてきた四百四十ボルトの高圧電流によって感電死亡。

一月三十日、宮浦鉱の本層五十卸右五片材料線で、電気器材を積んだ三輌連結の炭函が、コースが切れたため斜坑道を逸走。

二月七日、三川鉱（鉱長名は前述）の上層三十六昇の三片材料線で、炭車三輌がコース元がぬけたため、斜坑道を五十数メートルも逸走。車道も何もメチャクチャにした。

そして十一日の、森照男さんを死亡させ、小野勝美さんに重傷を負わせた災害に重なってきているのである。

いずれにしても、いまだに資本と裏切り幹部とがグルになっての支配を絶ち切れずにいる新労組員に、災害の犠牲が集中している事実は、全労仂者への重大な警告ではなかろうか。

## まずCO坑外分会が立った

「人間無視の合理化強行が生んだひどい人手不足が一切の災害の原因だということは、もうだれの目にもハッキリしている。このことがわかり過ぎているのだから、この上はどう対策をすすめるかは人道上の問題だ」――連続して発生する災害について、保安委員の一人＝橋本賢人さん（三川）は、十三日三川指導部で怒りにうちふるえながら語ったが、こんどの災害の事実が伝わると労仂者のはげしい怒りが三川鉱の全坑場を包んで燃えあがった。

ここに至るまで、宮浦でも抗議行動がまき起こったが、こんどの災害の起きた翌十二日の三川鉱では、まずCO坑外分会（政府から補償を打ち切られて、坑外転場につき落とされた百人以上のCO患者ばかりを結集している転場分会）が先手を切って、抗議行動に立ち上がった。

その日の退勤時刻になると、三川鉱々長室に押しかけて採鉱担当副長の杜（ゆずりは）次郎をとりかこみ「いまの連続災害を、お前たちは人間としてどげん思うとっとか。八百人もの俺たち労仂者を廃人にしておきながら、いまもなお前たちの手で仂く仲間が殺されるとゾ」とつめよった。そこに坑外全転場が、やがては坑内から人車でつぎつぎにあがってきては、坑底の全転場が加わる。

## 災害が刺激になるとは何だ

中でも十一日災害をひき起こした当の部内の甲方採炭の仲間が加わったかと思うと、仲間の一人がその日坑底で耳にした恐ろしい事実をバクロした。

「災害が昨夜起こっているばかりというのに、今朝坑底で青電気（転制が着用するキャップランプの色が青いので、転制のことをこういう）の奴どんが四～五人集まって何ち話しよったか知っとるか。『ときには災害がなかと刺激のなかもんなア』。しかも、まわりにいた新労組員の目の前で。そのことを聞いた新労組員の人がカンカンになって、こうこうだったばいとさっそく伝えてきてくれたが、こんな転制を指導する責任の地位にある者として、お前はいったいどげん考えるか、返事ばして見れ」でいっそうはげしい怒りがたぎり立って、それまでとかく横へイにかまえていた杜副長だったが、その一言で顔色を変えた。

「事実かどうか調査しろ！」

「そういうことをいった奴をこの場につれてこい！」

「保安対策の立ち遅れが、労仂者をつぎつぎに殺しているのだ。どう責任をとるつもりか！」

つぎつぎに抗議の声が杜副長に突きささる。さすがの杜副長もついには「対策の悪かったことを認める。責任をもって事実調査を行なう」と頭をさげなければならなくなったが、この日身をもって抗議行動に加わった三池労組員の一人は、つぎのように語ってくれた。

## 抑さえた食らわしたい気持

「抗議してしみじみわかることは、奴らの頭ン中には、自分の手が人間を殺したのだといった罪意識なんか、どこにも見られんですよ。抗議する私たちの目の前で、平然とそっくり返っている奴らの姿を見ていると、飛びかかっていって思いっきり食らわしてやりたくなってくるとですたい。ようようこらえました。それでも、自分たちの仲間を殺されている新労組員が、この段階でもまだ立ちあがれんのは残念です」

人命無視のはげしい合理化の風が吹きすさぶ三池炭鉱の現実は、いまこそ一と二の別なく、いのちを守るための闘いを強めなければならないことを教えている。

## 炭労、春闘方針確立

### ただちに具体的行動へ

十日～十一日の二日間東京で開催された炭労大会は、さすがに新石炭政策に直面するというきびしい客観情勢を反映して、三池闘争以来の熱のこもった討論（三池の各代表の一致した意見）の末、国有化春闘方針を確立した。

大会は、一万円賃上げ、その他の重要な要求とともに、労仂者一人二千円の闘争資金カンパを行ない、断固たる決意をもって闘うことを誓った。

くろだいや新聞
昭和44年2月10日
でかしたぞ！日本一の新記録
日産平均一万トン突破
三川鉱の一月出炭
保安成績も上向く
倉岡副社長が次長に
藤吉・三川鉱長代行
織田鉱長代行
炭鉱の近代化と共に
三池鉱業所の社内報〝くろだいや〟は、終始一貫生産意欲をあおりつづけている。まさに労仂者を死の道に追いたてる新聞だ。